

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた質の高い授業への創意工夫を進める。

◇新しい3学期制のもと、PDCAサイクルを生かしたカリキュラム・マネジメントを実践し、年間計画に基づいた評価時期までの学習計画を明確にし、「つきたい力」を確実に身につけさせる授業を展開する。

◇課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びを重視し、思考・発信型の授業を行う。

◆（全国学力・学習状況調査　生徒質問紙 54）生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

そう思う…39.6 どちらかといえば，そう思う…43.6

どちらかといえばそう思わない…13.9 そう思わない…3.0

◆社会・数学・理科・保健体育（１学期末・７月評価）における「思考力・判断力」観点の評価

１年生 Ａ（十分満足できる）…16.7 Ｂ（概ね満足できる）…44.2 Ｃ（努力を要する）…39.1

２年生 Ａ（十分満足できる）…28.9 Ｂ（概ね満足できる）…43.7 Ｃ（努力を要する）…27.4

３年生 Ａ（十分満足できる）…27.7 Ｂ（概ね満足できる）…40.5 Ｃ（努力を要する）…30.3

◆生徒アンケート

あ) 毎時間の授業で、「自分で考える」ことができています。

そう思う…34.1 大体そう思う…54.9 あまりそう思わない…7.7 そう思わない…3.3

い) 毎時間の授業で、「自分の考え」について話し合うことができています。

そう思う…25.3 大体そう思う…53.5 あまりそう思わない…18.3 そう思わない…2.9

- ◆生徒質問紙 54 の肯定的回答の割合は 61.9 (H28) →69.3 (H29) →83.2 (H30) と伸びている。中期的には授業方法の改善が進んでいるとみる。
- ◆「努力を要する」と判断される生徒が 30～40%に及ぶという教科指導の現状を踏まえ、「概ね満足できる」に至らせる学習活動を日常の授業で実現するための授業研究を進める。
- ◆あ) い) 共に否定的回答（あまりそう思わない・そう思わない）である生徒が 22 名（8%）いる。授業中に設定されている「考える」機会と「考えたことを発言する」機会から置き去りとなっていると考えられる。

◇11月8日には「学力状況分析」、11月26日には「授業改善」の研修会（研究授業を伴う）を実施する。これを契機に「思考・発信型の授業実践」の有効性を教職員が共有する。併せて、校内外の優れた事例についての情報共有を引き続き進め、授業改善への意欲を高める。

◇すべての生徒に「考える」機会と「考えたことを発言する」機会を提供することを狙った授業設計が必要である。

☆徐々に成果が上がっていることは評価できる。

☆あ) い) 共に否定的回答の「22名(8%)」は多いと捉えているのか? → 「少ない」という見方もありうるのだが、「置き去りにしない」ことが重要である。

価	☆8%をゼロにすることはできないと考えるが、引き続き授業を改善する努力に期待したい。
---	--

（２）「豊かな心」の育成に向けて

自己評価	重点目標
	主体性，自主・自律，向上心を育む指導を推進する。
	具体的な取組
	◇生徒会活動や学級活動において生徒の自治意識を高める取組を推進する。 ◇道徳の授業を要とした道徳教育を充実する。
	各種指標結果
自己評価	◆道徳の時間の評価 生徒が「深く考えた」とする項目 A 主として自分自身に関すること …31.9 B 主として人とのかかわりに関すること …30.9 C 主として集団や社会とのかかわりに関すること …18.2 D 主として生命や自然，崇高なものとのかかわりに関すること …18.9
	◆生徒アンケート あ) 学級での活動や，生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。 そう思う…31.4 大体そう思う…53.5 あまりそう思わない…11.8 そう思わない…3.3 い) 道徳の時間には自分のことを振り返り，深く考えることができている。 そう思う…38.8 大体そう思う…48.4 あまりそう思わない…10.6 そう思わない…2.2
	◆クラスマネージメントシート いずれの学級においても「子どもたちにとってとても居心地のよい雰囲気」「子どもたちにとって居心地のよい雰囲気」「子どもたちにとって落ち着いた雰囲気」という評価である。個別に課題のある子どもがいる可能性を踏まえて，丁寧に対応することが求められている。
	分析（成果と課題） ◇あ) について 85%が肯定的な回答，い) については 87%が肯定的な回答であり，毎年徐々にではあるが，特別活動と道徳の時間の内容が充実し，生徒にとって意義を実感できるものとなっている。一方で，あ) い) 共に否定的な回答をした生徒が 15 名（5.5%）いる。
	分析を踏まえた取組の改善 ◇集団としての「雰囲気がよい」「活動が活発化している」としても，その充実感からこぼされている生徒が学級に一人以上の割合でいることを踏まえて，諸活動の場面において，教科指導の場面において教職員が丁寧に見とることと，ペア活動や小集団活動の有効活用を図ることが必要である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ☆いわゆる「学級崩壊」は起きていないのか？→ない ☆アンケートに回答していない生徒もいるのか？→7月時点では全校で4名だが，2学期に入って不登校傾向の生徒はやや増えて各学年にいる。 ☆地域の行事や清掃に生き生きと参加する生徒の姿が見られることは喜ばしい。学校における大掃除等に地域からも協力することを検討したい。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

自己評価	重点目標 「命を守りきる」「事故・けがの未然防止」を常に念頭に置く。
	具体的な取組 ◇体育館建替え工事期間中、安全を徹底し、創意工夫ある教育活動を推進する。 ◇学校営繕ならびに安全管理、救命講習等、平常時の危機管理を徹底する。
	各種指標結果 ◆保健室来室状況のうち外科的内容について、４月～９月総数においては 251→237（対昨年）と減少傾向にある。しかし、３年生・１０月・体育授業時の「肉離れ」が増加している。 ◆北校舎屋上部分の庇から破片等の落下が認められる ◆グラウンド西側のブロック塀の一部に「せり出し」が認められる。
	分析（成果と課題） ◇部活動については、各小学校の協力を得てバレーボール、男女バスケットボール、卓球、剣道の各部活動場所を一定補完することが出来ている。また、グラウンドを 1/8 単位まで区切って各部が譲りあって活動している。しかしながら移動や活動場所の広さ、雨天対応等負担は大きくなっている。 ◇３年生の 10 月のけがの増加との因果関係は明らかではない
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 ◇引き続き、生徒の活動場所確保の努力を進めつつ安全管理に万全を期す ◇庇の修復工事については実施が認められているが、施工待ちの状態 ◇ブロック塀の危険箇所は解体工事は完了し、フェンス施工待ちの状態
	学校関係者による意見・支援策 ☆施設・設備については経年劣化の問題もあるだろう。体育館新築のほか環境改善のための工事が進められていることに感謝する。

（４）学校独自の取組

重点目標 9 年間の教育目標 （中学校ブロックの小・中学校で共有すること） 「次代をたくましく生き抜く力を育てる」 目指す子ども像 （中学校ブロックの小・中学校で共有すること） 自ら学ぶ子ども
具体的な取組 ☆学力向上を核とした小中連携の中心的役割を担い推進する。

中間評価

各種指標結果 ◆9 教科（1 学期末・7 月評価）における「関心・意欲・態度」観点の評価 1 年生 A（十分満足できる）…39.6 B（概ね満足できる）…49.5 C（努力を要する）…10.9 2 年生 A（十分満足できる）…34.7 B（概ね満足できる）…50.1 C（努力を要する）…15.3 3 年生 A（十分満足できる）…52.2 B（概ね満足できる）…39.6 C（努力を要する）…8.1
--

<p>◆生徒アンケート</p> <p>あ) 授業にはやる気の出る雰囲気がある</p> <p>そう思う…27.1 大体そう思う…52.0 あまりそう思わない…17.6 そう思わない…3.3</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>◇生徒アンケートにおいて、《毎時間の授業で、「自分で考える」ことができる。》《毎時間の授業で、「自分の考え」について話し合うことができる。》と《授業にはやる気の出る雰囲気がある》の回答結果には相関が認められる</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>◇関心・意欲・態度を高めることと力をつけることとは表裏一体であることを再度共通理解して、自ら学ぶ生徒を育てる授業づくりを進める</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>◇学習評価における「関心・意欲・態度」評価の状況</p> <p>◇生徒アンケート</p> <p>あ) 授業にはやる気の出る雰囲気がある</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>☆授業や行事の参観者が多いこと、部活動の試合にも保護者が応援に出向いていることは、子どもたちの意欲を高めることにつながり、ひいては目標達成に向けた力となると思う。</p>